



きとう俊郎県政レポート



【基幹支援センター】

①愛知県春日井コロニー

【地域支援センター】

②愛知県青い鳥医療療育センター

③愛知県三河青い鳥医療療育センター

④一宮医療療育センター(尾西記念病院)

⑤信愛医療療育センター(豊川市)

⑥重心施設にじいろのいえ(東海市)

⑦大同病院(南区)

令和3年12月定例県議会の質問が後押しとなって実現

私は、たんの吸引や人工呼吸器の使用が必要な「医療的ケア児」を支える家族の負担が重いことを訴えました。2021年9月に施行された「医療的ケア児支援法」で、家庭への相談などを行う「医療的ケア児支援センター」を都道府県が設置できることに言及して、医療的ケア児の支援拡充についての県の見解を求めました。これに対して大村知事は、「医療的ケア児支援センターを来年度に設置したいと考えている」と答弁しました。その後「2022年度愛知県予算」の中に、4972万円の予算が計上され、本年4月「あいち医療的ケア児支援センター」がオープンいたしました。愛知県内に全体で7箇所設置されました。

豊田市に住む谷岡千鶴さんと成南くんとの出会い

令和3年11月15日、私は加藤たかし県議と、豊田市の重症心身障がい児デイサービス「りすまいるリハビリセンター」を訪問しました。そこで、成南（セナ）くん【写真右下】と出会いました。「県として体制をつくってくれるのは本当にうれしい」――。豊田市に住む谷岡千鶴さんは、こう語ります。千鶴さんの次男・成南くん（13）は生まれつきの脳性まひ。たんの吸引が欠かせません。市内の発達センターで通園療育を受け、市立小学校の特別支援学級に入学しました。何度も交渉した結果、令和3年4月に入学した中学校では在校中の一定時間、訪問看護師にケアしてもらうことが可能になったのです。

千鶴さんは「何度も働き掛けて、やっと実現できました。当時、制度や体制があればずっと円滑だったと思う」と話します。今回県内7カ所に医療的ケア児支援センターができたことについては、「10年前、医療的ケア児はほとんど認知されていなかった。体制ができたことで対応できる専門職が増えることを期待しています」と話しておられました。



今伊勢町馬寄交差点に歩行者信号を設置しました

地域のお声をいただき、馬寄交差点に歩行者用信号機が共用開始しました。この馬寄交差点は今伊勢小学校の通学路です。1日に100名を越す児童が朝夕に利用するため地域のボランティアの皆さんが誘導に立っておられます。その中心で活躍される地域づくり協議会の柳井会長さんからお声をいただいたのが、今伊勢町地元の柴田雄二市議員でした。会長さんからは「歩行者用信号機が無いために、車の信号が黄色になってから児童が渡るのを止めたのでは、危険です」とのお声でした。また、ガードレールが無いために児童と車両が接触する危険がありました。そこで、この道路が県道であるため私と柴田議員と連携して対策にあたり、このたび2ヶ所のガードレール設置と歩行者用信号機の設置ができました。今後も公明党の市と県の連携で「小さな声を聞く力」を実践して参ります【写真中央が柳井会長】

きとう俊郎とつながろう！

ホームページ



Youtube



Facebook



Twitter



日々の活動報告をしています